

安岡孝一 議員
新風会・公明



○ 地方創生臨時交付金を含む物価高騰追加策予算の
用途について
○ 不登校の子どもを取り残さないについて

その他の質問

・学校等における、てんかん発作時の口腔用液(ブコラム)の投与について

議 政府は、3月28日の閣議で2022年度の新型コロナウィルス・物価高騰対策予算費から22兆円(地方創生臨時交付金の積み増し分12兆円を含む)を支出すると決定した。市は、この予備費で現在の物価高から市民生活や事業活動を守るための支援策をどのように進めていくのか。

理 今定例会に上程中の6月補正予算案に、電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金の推奨事業メニュー分として5016万5000円、低所得世帯支援枠分として5817万5000円の総額1億834万円を計上している。なお、勝山市の推奨事業メニュー分の交付限度額は8662万円となっており、その差額の3645万5000円分は、県の動向等を確認しながら、9月議会以降に計上する予定である。

議 文部科学省の調査では、2021年度の不登校の小中高生は約30万人で、過去最高となった。こうした状況を踏まえ、文科省は不登校の総合対策「COOLTOOL」を策定した。指導内容や授業時

間を柔軟に決められる「不登校特例校」を全国24校から300校へ拡大することや、教室に通いづらい子の居場所を校内に設ける「スペースサルサポートルーム」の設置等がある。勝山市の現状と認識、今後の取り組みについて伺う。

理 学校では、教室に入りづらい児童生徒のために、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習や生活ができるスペースサルサポートルームとして相談室を設置し、支援する教職員を配置している。また、1人1台のタブレットを活用して別教室や自宅でオンライン授業を受講できるようにし、その学習内容は担当教員のほか進学先でも支援が繋がるよう情報共有している。今年度、教育委員会内にもども課を設置したことで、情報を共有して迅速に学校や関係機関に繋ぐなど、児童生徒と保護者への包括的な支援を進めることが容易になった。新たな不登校を生まない学校をつくるため、教育と福祉の連携をさらに密にし、全ての児童生徒が安心して学ぶことができるよう、必要な支援の充実に努めていく。

議 指導内容や授業時

竹内和順 議員
新風会・公明



○ 勝山市役所周辺施設FM (案) について
○ 新中学校の開校に向けて

その他の質問

・「実家じまい」について
・こども課について

議 このほど、勝山市役所周辺施設ファシリテイマネジメントの報告があった。市民交流センターの「子育て支援センター」が「こども会館(仮称)」2階に移設配置されている。乳幼児・お母さん方、妊産婦さんも訪れる場所としては、1階がベターではないか。

理 こども会館のコンセプトは、こども公園(仮称)として改修予定の中央公園とこども会館がフラットに繋がり、滑り台や遊具で1階、2階、3階が繋がりと、さらには子育て支援センターとこども課、青少年室と教育総務課が繋がることをイメージしている。こども会館は、市の中心部に配置し、サンプラザやこども公園との連携が必須であると考えている。こども公園で遊ぶ子どもが、そのままこども会館の中で遊ぶことができよう、屋内遊具は1階を中心に設置したい。

議 市の広報紙「広報かつやま」を通じて、勝山市が目指す子どもたちの姿や中学校統合への進捗状況などを定期的にお知らせする件について、部活動の中高連携はよく聞く話だが、学習面における連携はどのように考えているのか。

理 探究的な活動に関して、勝山高校の勝高タイムや中学生の総合的な学習の時間において、それぞれの探究内容を発表し合うことで、中学生は高校生からアドバイスや刺激を受けられると考える。小学校でのふるさと学習が中学校での探究的な活動として再構築され、高校生から刺激を受けられることで探究が進み、高校でより進んだ探究的な活動に進化させるなど、小学校から高校までを見通した学習の繋がりをつくってきたい。

議 探究的な活動以外でも、高校生の授業や行事活動などを身近に見たり感じたりすることで、中学生は将来に向けた視野が広がり、逆に高校生は、中学生のお手本として自分たちがしていることに自信と誇りを持って取り組むことができるかと考える。

議 市の広報紙「広報かつやま」を通じて、勝山市が目指す子どもたちの姿や中学校統合への進捗状況などを定期的にお知らせする件について、部活動の中高連携はよく聞く話だが、学習面における連携はどのように考えているのか。